

中山道を歩く

歴史と浪漫



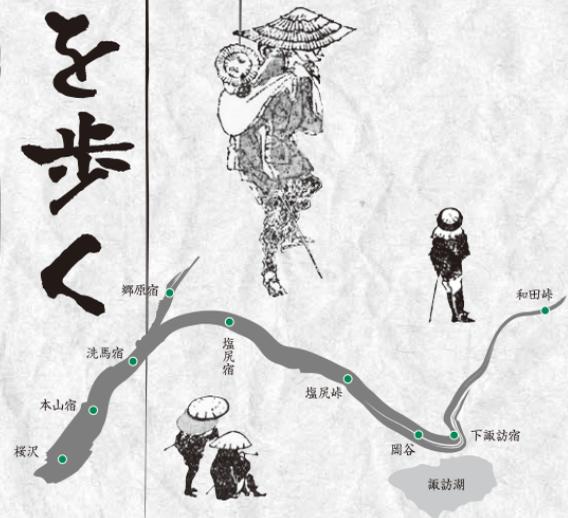
(一社) 塩尻市観光協会



中山道を歩く

歴史と浪漫

木曾路から
下諏訪宿へ



(一社) 塩尻市観光協会



下諏訪から木曾路へ
 和田峠、樋橋
 樋橋、宮の上
 下諏訪宿、岡谷
 岡谷、塩尻峠
 塩尻峠、柿沢
 塩尻宿
 大門、平出遺跡
 郷原宿
 洗馬宿
 本山宿
 日出塩、桜沢
 中山道と塩街道
 全体マップ
 木曾路から下諏訪へ

29 27 25 23 21 19 17 15 13 11 9 7 5 3 1

行き交う旅人や商人、
 街道の合流の地として
 往時の栄華が偲ばれる。

中山道の難所、和田峠を越えると
 温泉のある宿場町 下諏訪宿。
 甲州道中と合流の地であったことから
 旅人、商人などで大変賑わいました。
 諏訪湖を眺めながら
 岡谷の町、塩尻峠の沿道には
 神社仏閣、石仏群が点在し、
 峠の展望台からは
 遠く八ヶ岳や富士山などが望めます。



木落し坂



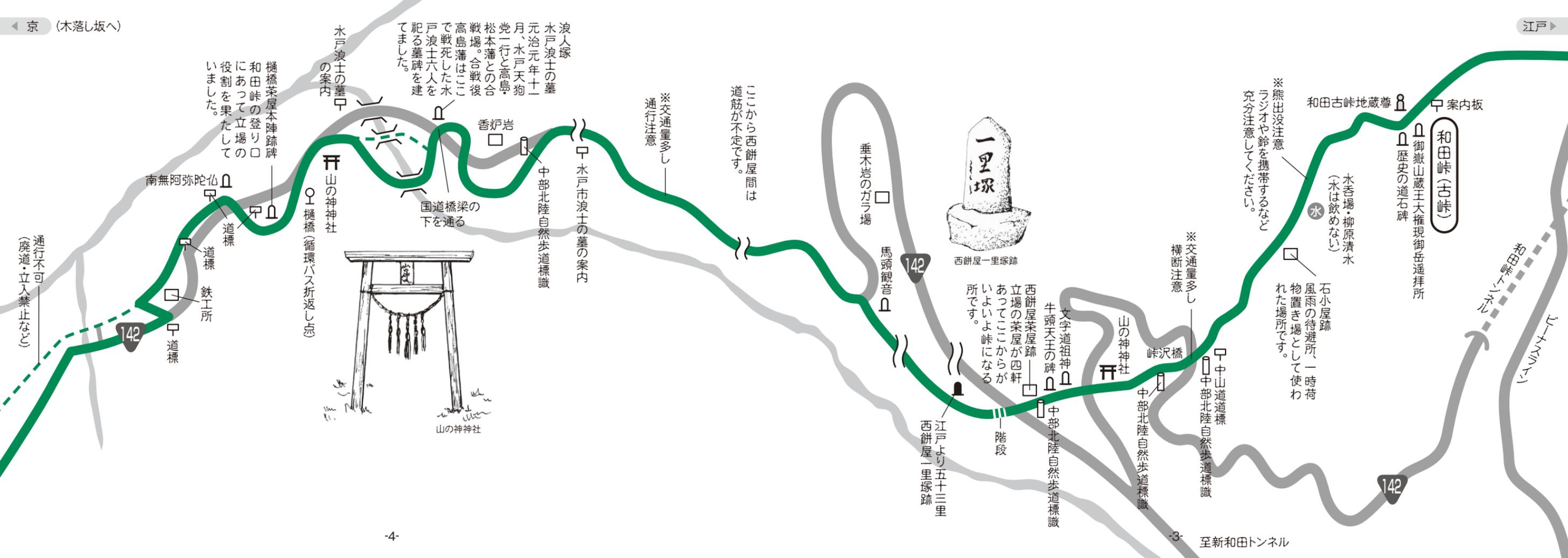
万治の石仏



五十五里塚跡



諏訪大社下社春宮



浪人塚
水戸浪士の墓
元治元年十一月、水戸天狗党一行と高島松本藩との合戦場。合戦後高島藩はここで戦死した水戸浪士六人を祀る墓碑を建てました。

樋橋茶屋本陣跡碑
和峠の登り口にあつて立場の役割を果たしていました。

山神社

〇樋橋(循環バス折返し点)



山の神社

中部北陸自然歩道標識

水戸市浪士の墓の案内

香炉岩

国道橋梁の下を通る

※交通量多し
通行注意

ここから西餅屋間は
道筋が不定です。

垂木岩のガラ場

馬頭観音

142



西餅屋一里塚跡

西餅屋茶屋跡
立場の茶屋が四軒あつてここからが
いよいよ峠になる
所です。

階段

江戸より五十三里
西餅屋一里塚跡

中部北陸自然歩道標識

文字道祖神
牛頭天王の碑

山神社

中部北陸自然歩道標識

峠沢橋

※交通量多し
構断注意

中山道道標

中部北陸自然歩道標識

※熊出没注意
ラジオや鈴を携帯するなど
充分注意してください。

水香場・柳原清水
(水は飲めない)

石小屋跡
風雨の待避所、一時荷
物置き場として使わ
れた場所です。

和田古峠地藏尊

歴史の道石碑

和峠(古峠)

御嶽山蔵王大権現御岳遙拜所

案内板

至新和田トンネル

通行不可
(廃道・立入禁止など)



五十四里塚の碑

江戸より五十四里
樋橋一里塚碑

通行可

リサイクル会社
事務所
※一里塚までは
通行できますが
作業車等に
ご注意下さい

地下道を
くぐる

ドライブイン跡

一里塚碑案内板

諏訪大社御柱祭(木落し坂)
下社に立てる縦の大木に氏子が乗り、
急斜面を滑り落とす

木落し坂トンネル

町屋敷
(あやみ谷)

諏訪で一番先に出来た発電所
今も発電中

142号バイパス

142

工落合橋(あやみ谷)

芭蕉句碑



芭蕉句碑

道祖神と馬頭観音

途中階段有り

天下の木落し坂碑
中部北陸自然歩道標識

注連掛(しめかけ)
御柱の里曳き祭の曳き出し場所。

「ゆき散や
穂家のすすきの
刈残し」

通行注意

八本の御柱が一月月に休む
注連掛広場
(御柱が揃う)

注連掛(あやみ谷)

毒沢鉱泉

道祖神と馬頭観音

砥川

山の神社



発電所

道水管が見える

山の神道祖神

諏訪大社下社春宮
全国にある諏訪神社の総本社。
上下四社の内下社二社の一社。
祭神はその昔は女神八坂刀
売神でしたが、現在は建御名
方神との二柱。弊拜殿・左右片
拜殿は大隅流の建築で国重要
文化財です。境内の筒粥殿で
行われる「筒粥神事」は下社七
不思議のひとつ。裏手には浮島、
万治の石仏があり、「浮島」も
下社七不思議のひとつです。

慈雲禅寺の伽藍が見える

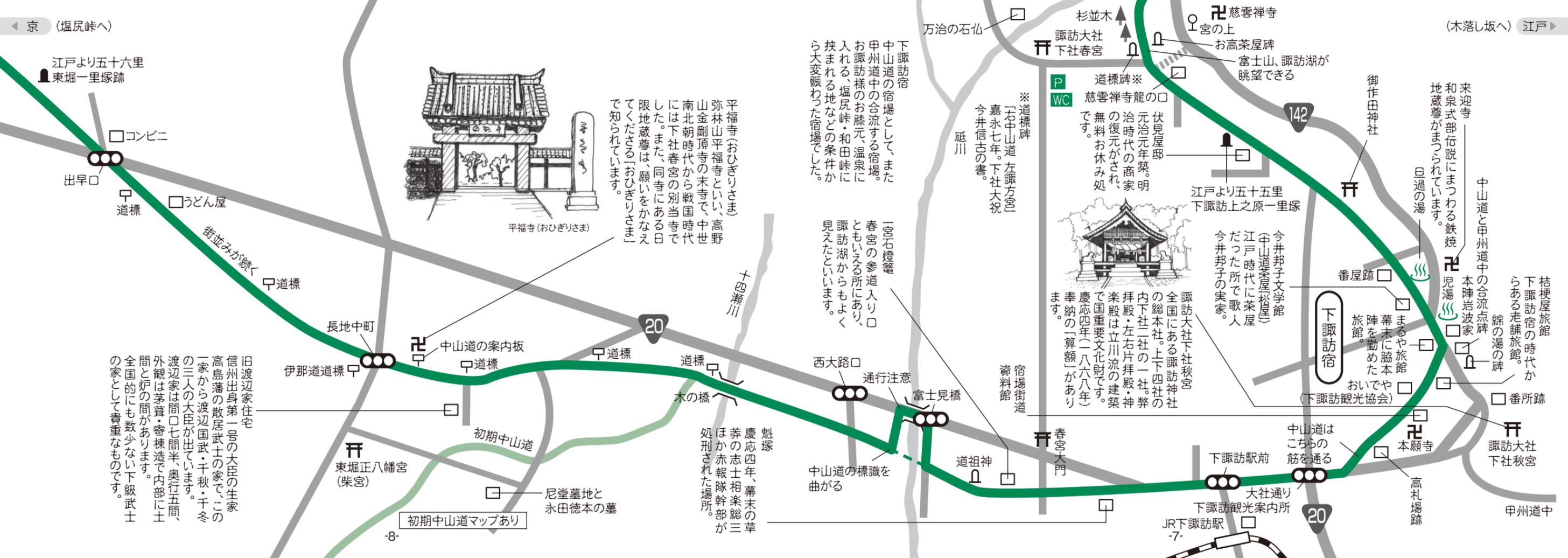
慈雲禅寺
正安二年創建の古刹。武田信玄
にも縁のある寺院です。

万治の石仏

杉並木

お高茶屋碑
街かど博物館
宮の上

慈雲禅寺龍の口
慈雲禅寺の参道口。高遠系
石工山田氏の龍の石彫の
手水があります。



京 (塩尻峠へ)

(木落し坂へ) 江戸

江戸より五十六里
東堀一里塚跡

コンビニ

出早口

甲道標

うどん屋

街並みが続く

甲道標

長地中町

伊那道道標

東堀正八幡宮
(柴宮)

-8-



平福寺(おひぎりさま)

平福寺(おひぎりさま)
弥林山平福寺といひ、高野山金剛頂寺の末寺で、中世南北朝時代から戦国時代には下社春宮の別当寺でした。また、同寺にある日限地蔵尊は、願いをかなえてくださる「おひぎりさま」で知られています。

初期中山道

初期中山道

初期中山道マップあり

尼堂墓地と永田徳本の墓

20

道標

木の橋

魁塚
慶応四年、幕末の草莽の志士相楽総三ほか赤報隊幹部が処刑された場所。

十四瀬川

甲道標

道標

西大路口

通行注意

富士見橋

中山道の標識を曲がる

甲道標

道標

甲道標

下諏訪宿
中山道の宿場として、また甲州道中の合流する宿場。お諏訪様のお膝元、温泉に挟まれる地などの条件から大変賑わった宿場でした。

一宮石燈籠
春宮の参道入り口ともいえる所にあり、諏訪湖からもよく見えたといえます。

石治の石仏

諏訪大社
下社春宮

杉並木

宮の上

お高茶屋碑

富士山、諏訪湖が眺望できる

道標碑※

伏見屋邸

元治元年築。明治時代の商家の復元がされ、無料お休み処です。

WC

慈雲寺龍の口

江戸より五十五里
下諏訪上之原一里塚



諏訪大社下社秋宮
全国にある諏訪神社の総本社。上下四社の内下社二社の一社。弊拜殿・左右片拜殿神楽殿は立川流の建築で重要文化財です。慶応四年(一八六八年)奉納の「算額」があります。

※道標碑
石中山道 左諏方宮
嘉永七年。下社大祝
今井信古の書。

低川

宿場街道
資料館

春宮大門

道祖神

大社通り

下諏訪駅前

下諏訪観光案内所

JR下諏訪駅

20

下諏訪

高札場跡

本願寺

諏訪大社
下社秋宮

甲州道中

番所跡

綿の湯の碑

来迎寺

和泉式部行説にまつわる鉄焼

地蔵尊がまつられています。

日過の湯

御作田神社

下諏訪宿

桔梗屋旅館

下諏訪宿の時代からある老舗旅館。

綿の湯の碑

本陣岩波家

児湯

番所跡

まるや旅館

幕末に脇本陣を勤めた旅館。

おいでや

下諏訪

(下諏訪観光協会)

中山道と甲州道中の合流点

下諏訪

旭観音堂(市有形文化財)
諏訪の名匠・立川和四郎
富昌・富重父子により完
成された観音堂。
安政三年(一八五六年)
奉納の「算額」があります。

山門(仁王門)
太田南海制作の仁王像
(市有形文化財)
江戸より五十八里 柿沢一里塚跡

永福寺
三州街道

小野家住宅
天保年間(一八二九〜)
に再建された旅籠で屋
号を「いてうや」とい
います。間〇八間、奥行き
四十間の町割り敷地と、
主屋、文庫、隠居所、納屋
他付属構築物の屋敷構
え全体が国重要文化財。

高札場跡
江戸時代、幕府や藩
の法度類を墨書き
した高札が掲示さ
れた場所。下問屋跡
の前に復元されて
います。(塩尻宿案
内板)

阿禮神社
延喜式神名帳(平安
時代)に記されている
格式のある神社。

塩尻宿からの
穂高連峰の眺望は絶景

堀内家住宅
堀内家は江戸時代に
堀の内村の名主を務
めました。文化年間(一
八〇四-一八一年)に下
西条村の川上家から
移築された本棟造の
住宅は、この系統民
家の一頂点を示すも
のと言えます。国重
要文化財。

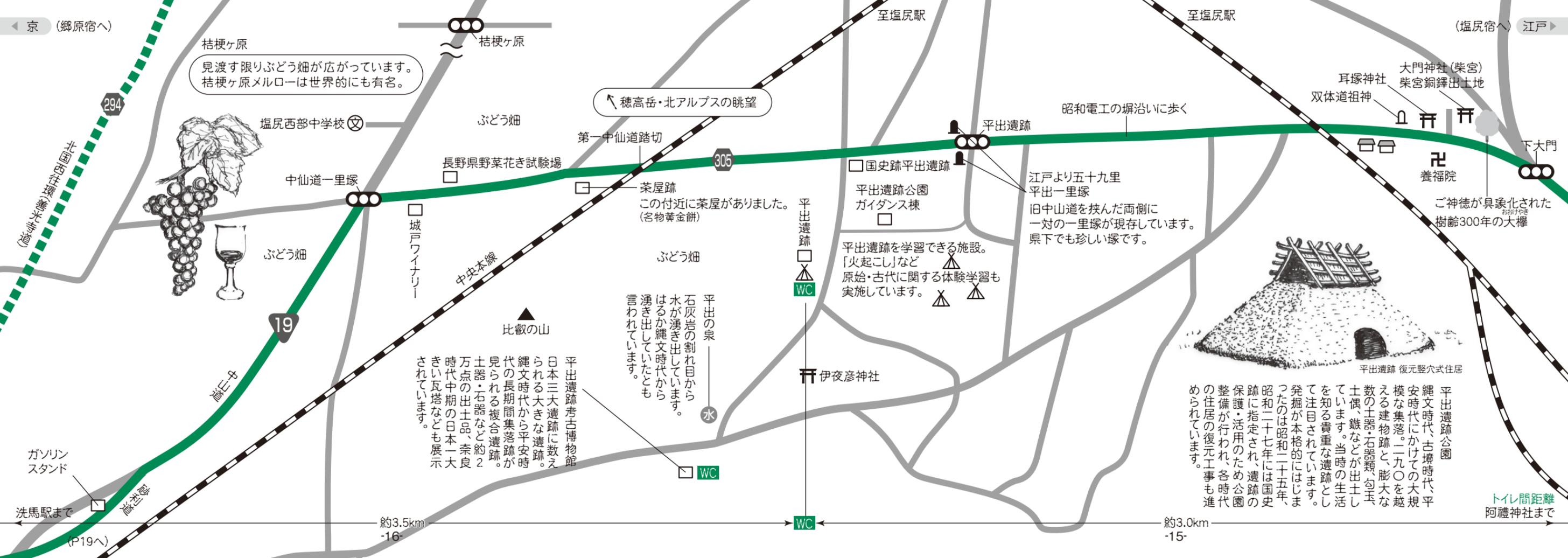


堀内家住宅



※車両通行量多く歩行注意

中山道塩尻宿
慶長十九年(一六一四年)に整備され、その後東へと広がり、幕末には七町二十九間(八二〇〇)の大宿場となりました。
塩尻宿は松本領と諏訪領の境で、「米穀類や禁制品を改める」「留番所」が設けられ、人・馬の中継場所として上・下の問屋場がつくられ、参勤交代など、公用者や上級武士が休泊する本陣や脇本陣が設けられました。
寛政十二年(一八〇〇年)旅籠屋は四十五軒、幕末には七十五軒と増え、中山道で二番、信濃では一番の数でした。



見渡す限りぶどう畑が広がっています。
桔梗ヶ原メルローは世界的にも有名。

徳高岳・北アルプスの眺望

昭和電工の塀沿いに歩く

江戸より五十九里
平出一里塚
旧中山道を挟んだ両側に
一对の一里塚が現存しています。
県下でも珍しい塚です。

平出遺跡を学習できる施設。
「火起こし」など
原始・古代に関する体験学習も
実施しています。

平出の泉
石灰岩の割れ目から
水が湧き出しています。
はるか縄文時代から
湧き出していたとも
言われています。

平出遺跡考古博物館
日本三大遺跡に数え
られる大きな遺跡。
縄文時代から平安時
代の長期間集落跡が
見られる複合遺跡。
土器・石器など約2
万点の出土品、奈良
時代中期の日本一大
さい瓦塔なども展示
されています。

平出遺跡公園
縄文時代、古墳時代、平
安時代にかけての大規
模な集落。二九〇を越
える建物跡と膨大な
数の土器・石器類、勾玉
土偶、鏃などが出土し
ています。当時の生活
を知る貴重な遺跡とし
て注目されています。
発掘が本格的にはじま
ったのは昭和二十五年
昭和二十七年には国史
跡に指定され、遺跡の
保護・活用のため公園
整備が行われ、各時代
の住居の復元工事も進
められています。

トイレ間距離
阿禮神社まで

約3.5km
-16-

約3.0km
-15-

京 (郷原宿へ)

(塩尻宿へ) 江戸

光岡町(藤原)米峠(峠)

ガンリン
スタンド

洗馬駅まで

(P19へ)

桔梗ヶ原

桔梗ヶ原

塩尻西部中学校

ぶどう畑

第一中仙道踏切

305

平出遺跡

昭

耳塚神社

大門神社(柴宮)
柴宮銅鐸出土地

双体道祖神

養福院

下大門

中仙道一里塚

長野県野菜花き試験場

茶屋跡
この付近に茶屋がありました。
(名物黄金餅)

国史跡平出遺跡

平出遺跡公園
ガイダンス棟

ぶどう畑

城戸ワイナリー

中央本線

ぶどう畑

平出遺跡
WC

比叡の山

伊夜彦神社

水

WC

WC

平出遺跡 復元竪穴式住居

郷福寺
高野山真言宗の寺院で慶長十七年(一六二二)僧憲快により中興された。明治十三年(一八八〇)明治天皇の巡幸があり御小休所となった。



郷福寺

祠の前の御影石を拾っていぼに擦りつけるといぼがとれると言われています。



いぼ神様

高札場
五稜の掲示等の高札。郷原宿の紹介を掲示しています。

芭蕉の句碑
野を横に馬曳ぎ計よ



芭蕉の句碑

郭公(奥の細道)

用水路(セゲ)
桔梗ヶ原台地にあったため水は緊急の課題であり、奈良井川上流の琵琶橋付近から太田井堰を通して、街道筋(東西の屋敷内、裏に二筋つつ計五筋の用水路があります。



古井戸

乏水性台地で水位が低く、各家で井戸を設けることが困難で、十数メートルのつるべ縄深井戸を六基掘って共用で使用管理しました。



平入り構屋造り

きりつほんむねづく
切妻本棟造り
緩い勾配の切妻屋根で妻側を正面とする本棟造。「雀おどり」「雀返」と呼ばれる棟飾りが威風堂々とした外観を与えています。



切妻本棟造り

郷原の地から東に高ボッチ山、西には鉢盛山、遠くに穂高連峰が望めます。



穂高連峰の眺望

塩尻短歌館
津島神社

25

原新田

鎮守稲荷大明神 (いぼ神様)

カガヤ小路

サイイヤ小路

西裏道

東裏道

郷原宿

オモテの川

東ウラセнге

西ウラセнге

西ナカセнге

東ナカセнге

東ウラセнге

山城屋(庄屋)

郷原宿の碑 (郷原簡易郵便局)



郷原宿の碑

西大小路 (タマヤ小路)

東大小路 (タマヤ小路)

川上屋

木屋

郷原公民館

郷原諏訪稲荷神社

郷原トネル

オオタ井セнге

火の見櫓

北国西往環 (善光寺道)

JA塩尻市「新鮮市場ききょう」

松本歯科大学 -18-

郷原工業団地

郷原工業団地

JAファイナー



郷原区民会館

日本アルプスセラダ街道

林農園 (五一わいん)

井筒ワイン

洗馬より一里

太田の二里塚

接待所跡

馬頭観音

信濃ワイン

太田の清水

太田大日堂

琵琶橋

京 (洗馬宿へ)

19

292

294

17

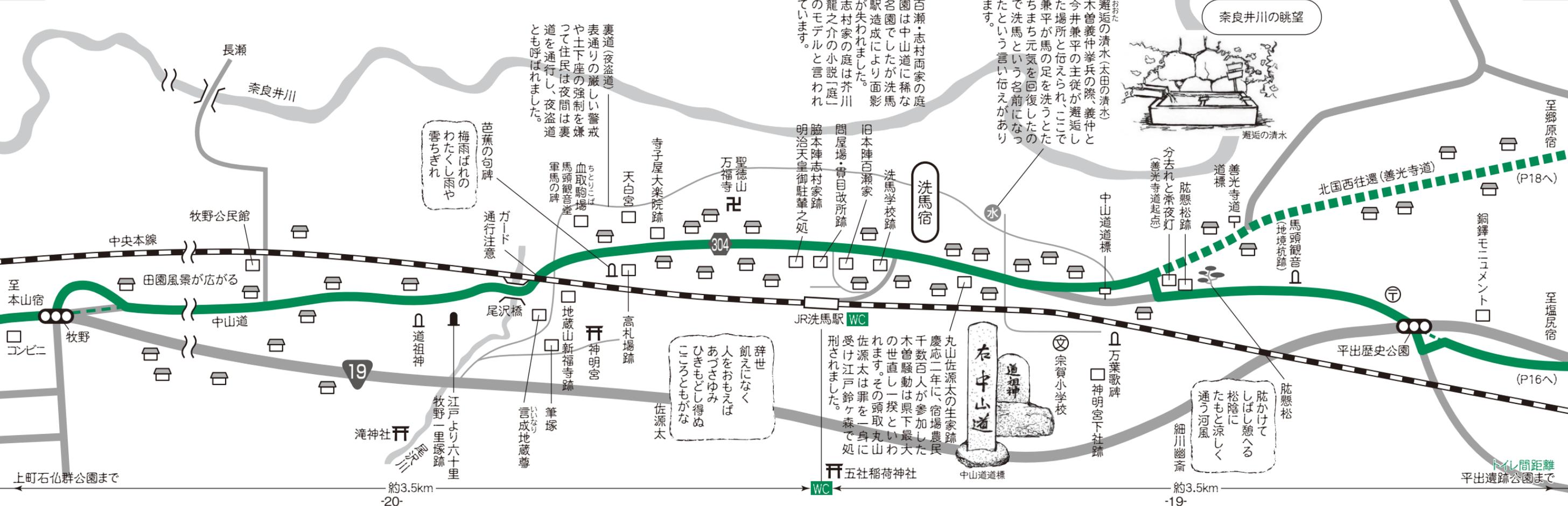
18

19

20

21

22



奈良井川の眺望



邂逅の清水

おわた
邂逅の清水 太田の清水
木曾義仲拳兵の際、義仲と
今井兼平の主従が邂逅し
た場所と伝えられ、ここで
兼平が馬の足を洗うたと
ちまち元気を回復したた
たという言い伝えがあり
ます。

百瀬・志村両家の庭
園は中山道に稀な
名園でしたが洗馬
駅造成により面影
が失われました。
志村家の庭は芥川
龍之介の小説「庭」
のモデルと言われ
ています。

洗馬宿



道標神 右中山道

丸山佐源太の生家跡
慶応二年に、宿場農民
千数百人が参加した
木曾騒動は、県下最大
の世直し一揆といわ
れます。その頭取丸
山佐源太は罪を一身に
受け江戸鈴ヶ森で処
刑されました。

辞世
飢えになく
人をおもえば
あつさゆみ
ひきもとし得ぬ
こころともがな

佐源太

裏道 夜盗道
表通りの厳しい警戒
や土下座の強制を嫌
って住人は夜間は裏
道を通行し、夜盗道
とも呼ばれました。

梅雨ばれの
わたくし雨や
雪ちぎれ

芭蕉の句碑

19

約3.5km

約3.5km

トイレ間距離

平出遺跡公園まで

江戸より六十一里
日出塩三里塚跡
京へ七十一里と印さ
れ「六十一里塚」とも
呼ばれ、道の両側に榎
が植えられていました。

セツブンソウ群生地
雪解けと共に咲く希少種
セツブンソウのあとは、カ
ンザン・ウスズミザクラ・
キクザクラ・シロタエ・オ
オヤマザクラなど日本の
名桜が公園を彩り、訪れる
人々を楽しませてくれます。



(セツブンソウ)

トイレ間距離
上町石仏群公園まで
WC ← 約1.0km

WC
桜の丘公園
P

JR日出塩駅

長泉院

日出塩公民館

奈良井川

初期中山道案内板(塩尻
側)木曾路から牛首峠を
越えて小野宿に抜ける分
岐点。初期中山道の道筋
と見どころが掲載されて
います。

かつて尾張藩と松本藩の
境でした。文献によれば
橋の真中に境界線があっ
たと言われています。橋
の架け替えや修復の費用
は両藩で公平に負担しま
した。

「是より南木曾路」の碑



細い山道につき
歩行注意

馬頭観音

馬頭観音

桜沢

至轡川宿
奈良井宿



(馬頭観音)

この部分の街道(今の国道)は村
の人が自力で岩を削って道を作
り通行料を取っていたとか信州
で最初の有料道路では?
「村の古走のお話です」
谷が狭く良い景色です。木曾路
一番の立派茶屋があった。古い
立派な家が残る。

明治天皇の行在所の碑
京(轡川)

御岳公園

約6.0km

至牛首峠を経て小野宿へ

轡川駅まで

中山道と姫街道

いわれ

江戸時代、幕府の将軍家が京都の皇族や貴族の姫宮を夫人として迎えておりました。その御輿入れの際、姫宮たちはいずれも中山道をお通りになっていたため、中山道は「姫街道」と別名がつくほどでした。中山道には幾つかの厳しい山道はありましたが、東海道のような長期にわたる川止めがないことが利点であり、縁起の良い地名など※も多いことから姫宮のご降嫁に使われた理由だと考えられております。

※馬籠宿(孫目)、上松宿、岩村田宿の「相生の松」、長久保宿(久しく保つ)など。

中山道を通りご降嫁した姫宮たち

| 年代 | 姫宮 | 婚家相手 | 宿泊地 |
|-------------|---------|----------|--------------|
| 明暦3年(1657) | 浅宮 顯子 | 4代 家綱 | |
| 寛文4年(1664) | 鷹司 信子 | 5代 綱吉 | |
| 不明 | 近衛 熙子 | 6代 家宣 | |
| 宝永3年(1706) | 寛徳院 理子 | 8代 吉宗 | |
| 享保16年(1731) | 伏見宮 比宮 | 9代 家重 | 野尻・福島・贄川 |
| 寛延2年(1749) | 閑院宮 五十宮 | 10代 家治 | 馬籠・須原・奈良井 |
| 文化元年(1804) | 有栖川 楽宮 | 家慶(家斉嫡子) | 野尻・福島・贄川 |
| 天保2年(1831) | 有栖川 登美宮 | 水戸 | 野尻・福島・贄川 |
| | 鷹司 有君 | 13代 家定 | 野尻・福島・贄川 |
| 嘉永2年(1849) | 一条 寿明君 | 13代 家定 | 野尻・福島・贄川 |
| 文久元年(1861) | 孝明天皇妹和宮 | 14代 家茂 | 三留野・上松・藪原・本山 |

出典:旧横川村誌第三巻「近世」より

皇女和宮のご降嫁

弘化3年潤(1846年)和宮親子内親王(かずのみやちこくないしのう)※は、仁孝天皇の第八皇女、孝明天皇の異母妹としてお生まれになり、文久元年(1861年)江戸幕府第14代将軍・家茂の正室として迎えられました。

皇女が武家にご降嫁したのは和宮が日本史上初のことでした。公武合体のための和宮のご降嫁行列は、京都を出発し、中山道木曽路を江戸に下りました。11月4日に奈良井宿で小休憩、贄川宿で昼食、本山宿宿泊という日程でした。このご通行に際して、木曽十一宿を三継ぎ、一継ぎに延べ人足が22,587人、伝馬が延べ669頭(馬籠宿継ぎ立て伝馬)が動員されるなど、史上最大規模の給巻物のような豪華さだったと伝えられています。ご通行沿道は「村人の外出禁止」「男は家の片陰で慎み」「女は姿を見せてはならない」「商売禁止」「犬猫は鳴き声が聞こえぬ遠方に繋ぐ」「寺の鐘や水車など鳴り物禁止」「火の用心」等々。それはそれは厳重且つ仔細にわたり、警備・危機管理は細心の注意が払われました。



古文書「和宮御通典ニ付諸事扣」

※「和宮」は幼名で、「親子」は文久元年(1861年)の内親王宣下に際して賜った諱(いみな)であり、家茂死後には落飾し、静寛院宮(せいかんいんのみや)と名乗りました。

和宮を迎えた本山宿

11月4日のご通行に向けて、命を受けた松本藩により8月から準備が始められました。

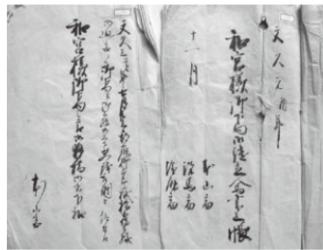
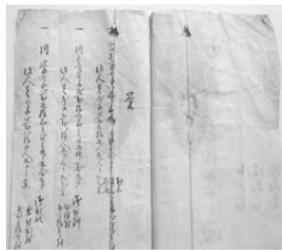
ご通行道は掘り返して砂が敷かれ、大工職人と材木が集められて24軒の宿を新築。和宮ご宿泊所になる本陣は、居間周辺や湯殿を総檜造りに、畳建具なども全て新調されました。

沿道警護は本山宿から下諏訪宿まで、10月29日から11月9日までとされ、郷原宿に大屯所が設けられ、本山・洗馬・塩尻の三宿に夜具道具類・槍・鉄砲・弓などが松本町から運び込まれました。本山宿北辺から洗馬宿に向けて、助郷人足1万数千人と馬2千頭の仮小屋が連ち並び、炊き出しが行われました。

和宮は11月4日午後3時ころ本陣に到着されてご宿泊、翌朝7時頃には出発されました。

この一晩のために本山宿におかれた提灯は、星よりも多いと嘆息するほどの数であったと伝えられています。

出典:塩尻市誌、松本史第2巻歴史編「近世」より



古文書「和宮様御下向御継立人馬書上帳」

3万人の大行列一下諏訪宿

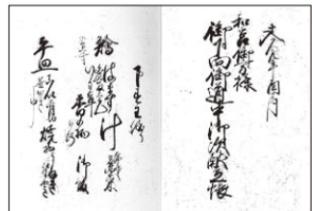
文久元年4月1日、下諏訪宿に和宮ご降嫁の知らせが届くやいなや、道や橋の調査、人足や馬の調達など受け入れ準備に追われました。下諏訪宿まわりの107村だけでは足りず、甲州の173村を加え人足17,285人、馬830頭が集められました。その人馬が泊まる小屋、米、馬の餌、薪など用意は大変なものでした。

11月3日に行列の先頭が到着、5日午後5時頃に和宮が到着されて宿泊、翌朝7時頃ご出発されました。一番のピークは和宮ご宿泊の翌日で、人足17,000人、馬1,100頭という膨大な数でした。行列の荷物などを運び終わったのが11月8日。京都方と江戸方を合わせて総勢約3万人という、下諏訪宿始まって以来の大行列であったとのこと。

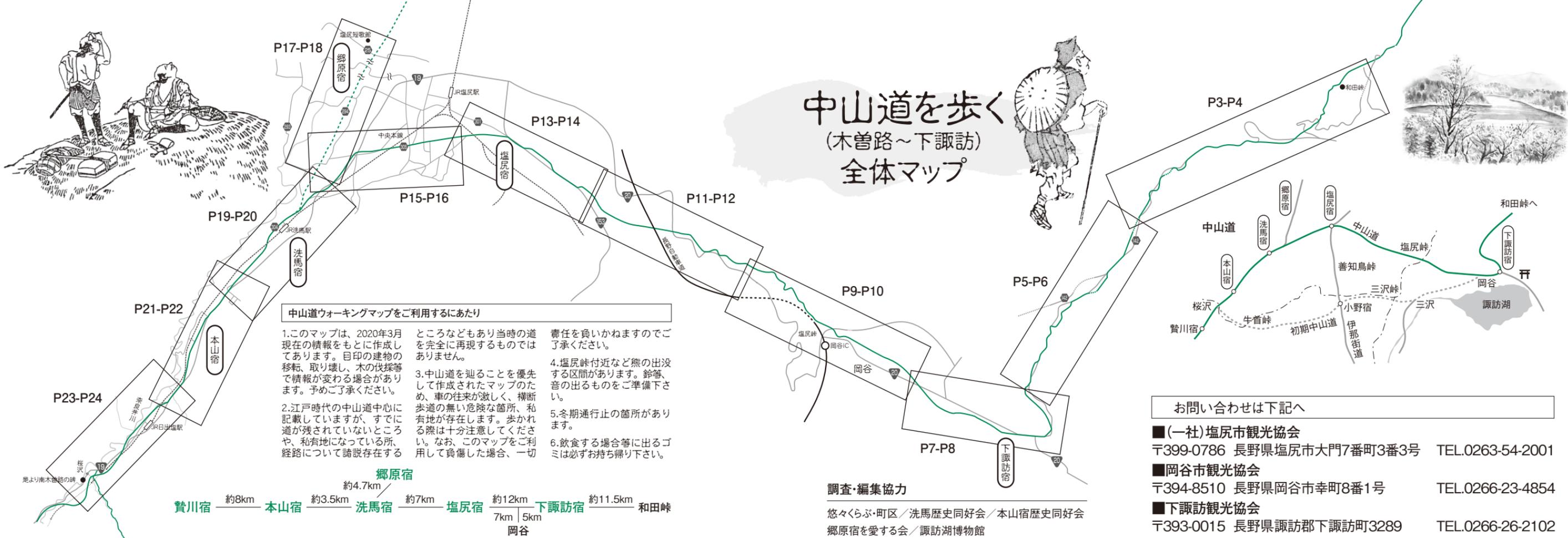
「お触れ」から行列後の始末までに要した延べ総数は、人足40,821人、馬2,843頭にのぼりました。和宮ご宿泊の本陣は建物920㎡、畳数233畳、半分が本陣、あとは問屋も兼ねた私宅でした。



和宮御方様献立再現料理
鱈(なます)にはまず、白髪大根・岩茸、平皿に鱈の背切、焼物に鰻、香の物、御飯、赤味噌汁の「一汁四菜」が用意されました。



古文書「和宮御方様御下向御継立人馬書上帳」



中山道ウォーキングマップをご利用するにあたり

- 1.このマップは、2020年3月現在の情報をもとに作成してあります。目印の建物の移転、取り壊し、木の伐採等で情報が変わる場合があります。予めご了承ください。
- 2.江戸時代の中山道中心に記載していますが、すでに道が残されていないところや、私有地になっている所、経路について諸説存在するところなどもあり当時の道を完全に再現するものではありません。
- 3.中山道を辿ることを優先して作成されたマップのため、車の往来が激しく、横断歩道の無い危険な箇所、私有地が存在します。歩かれる際は十分注意してください。なお、このマップをご利用して負傷した場合、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 4.塩尻峠付近など熊の出没する区間があります。鈴箸、音の出るものをご準備下さい。
- 5.冬期通行止の箇所があります。
- 6.飲食する場合等に出るゴミは必ずお持ち帰り下さい。

郷原宿 約4.7km
 洗馬宿 約7km
 塩尻宿 約12km
 下諏訪宿 約11.5km
 和田峠
 岡谷
 本山宿 約3.5km
 洗馬宿 約7km
 塩尻宿 約12km
 下諏訪宿 約11.5km
 和田峠
 岡谷
 贊川宿 約8km
 本山宿 約3.5km
 洗馬宿 約7km
 塩尻宿 約12km
 下諏訪宿 約11.5km
 和田峠
 岡谷

中山道を歩く
(木曾路～下諏訪)
全体マップ

お問い合わせは下記へ

- (一社)塩尻市観光協会
〒399-0786 長野県塩尻市大門7番町3番3号 TEL.0263-54-2001
- 岡谷市観光協会
〒394-8510 長野県岡谷市幸町8番1号 TEL.0266-23-4854
- 下諏訪観光協会
〒393-0015 長野県諏訪郡下諏訪町3289 TEL.0266-26-2102

調査・編集協力
悠々くらぶ・町区/洗馬歴史同好会/本山宿歴史同好会
郷原宿を愛する会/諏訪湖博物館

本山、洗馬、塩尻…。
路傍の石碑群が
江戸の面影を残します。

急坂な峠道を越え、深い谷を歩き、
木曾十一宿の最北端の宿、
鷺川宿を抜けると

江戸へと向かう旅人はようやく
一息ついたことだろう。

そば切り発祥の本山宿、
善光寺道との追分でもあった洗馬宿、
旅籠七十軒の塩尻宿へと続く

その旅の足どりは
軽かったに違いない。



堀内家



平出遺跡



平出一里塚



洗馬宿脇本陣跡

下諏訪から木曾路へ
和田峠〜橋橋
橋橋〜宮の上
下諏訪宿〜岡谷
岡谷〜塩尻峠
塩尻峠〜柿沢
塩尻宿
大門〜平出遺跡
郷原宿
洗馬宿
本山宿
日出塩〜桜沢
中山道と紙街道
全体マップ
本曾路から下諏訪へ

29 27 25 23 21 19 17 15 13 11 9 7 5 3 1

